

# まえぶれ

「まえぶれ」それはこれから起<sup>こ</sup>ころ事柄<sup>じごうがし</sup>について、  
前もって告<sup>つ</sup>げ知らせること。

そしてそれは、

決して良いことばかりとは限<sup>かぎ</sup>らないのです……。



わたしと友人は、夕暮れの公園で、買ったばかりの缶コーヒーを飲みながら、とりとめのないおしゃべりをしていた。

空は夕焼けで鮮やかな赤紫色に染まり、残陽に雲が輝いている。

と、風もないのにブランコが揺れはじめ、誰かが忘れていった子ども用のベダルカーが円を描きながら走り出した。

周囲からは音が消えて耳が痛いほどの静寂が訪れる。

とっさに目を閉じて、耳を押さえるが、しばらくすると感覚が戻ってきた。

恐るおそる目を開けると、さっきまで誰もいなかったはずの公園に、走りまわる子どもたちの笑い声が響いている。

突然子どもたちの動きが止まり、一斉にわたしの方を向く。

子どもたちの顔に目はなかった。

口だけを大きく開いてケラケラと笑う。

隣に座っている友人もわたしの方を向いてケラケラと笑った。

同じように目のない顔で。

わたしの手から落ちたコーヒーの缶が音を立てて地面に転がる。

その一瞬で公園も友人の顔も、元に戻っていた。

ほどなくして、公園の周辺で不可解な事故や火事が続いていると言  
う噂を聞いた。

誰もいない公園に一瞬訪れた静寂。

そして目の前で走り回るこの世のものではない子どもたち。

この時公園は明らかに悪意に満ちた空間へと姿を変えました。

これから起こる不幸のまえぶれとして。



# 山のバス停

利用者が少ない路線バスが次々と廃止になっていき、  
都会からちょっと離れた地域でも

自家用車がないと不便な場所が増えました。

もう来ることのないバスを持つバス停は、とても寂しそうに見えます。

